

令和3年度

徳島市八万中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

生徒自らが、積極的に学習に取り組もうとする姿勢の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
板東 幸治 天羽 和恵	校長 : 大阪真智子 研修主任 : 天羽 和恵・板東 幸治 教頭 : 吉田 光宏 1学年主任 : 竹内 宏子 教頭 : 島田 佳美 2学年主任 : 板東 幸治 教務主任 : 新田 恭一 3学年主任 : 浜崎 加代

校長

大阪真智子

【各校の取組状況の把握について】

・学校評価アンケート、各テストなどによる現状把握、管理職による授業参観、教員自身の振り返りなどを活用

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小テストなどのスモールステップの振り返りに、コツコツ真面目に取り組む生徒は多い。 ●2極分化が進み、基礎基本の定着が不十分な生徒の割合が多い。また、全体としては、家庭学習時間は少ない。	・家庭学習の充実による、基礎基本の定着	・「家庭学習の必要性」を生徒に理解させる ・保護者への啓発	ステップアップテストの結果から全学年とも、国語で2極分化が見られる。 全教科で「話す・聞く・読む・書く」力を身につけることを意識した授業を行う。	・教員「家庭学習の重要性を認識させる指導をしている」90% ・生徒「家で1時間以上自分で勉強している」81% ・保護者「おさんは、毎日家で1時間以上勉強している」65% ・後半、国語の2極分化が改善されている方向が見られた	毎日1時間以上勉強する割合を90%以上にすることを目標とする。そのために、「家庭学習の重要性(人に頼らず自分自身で取り組む)」を、生徒・教員・保護者の3者全体に、より普及させる必要がある。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読み取りが必要な問題、記述問題などに諦めずに取り組むことができる生徒が多い。 ●的確に読み取る力、よりわかりやすくまとめる力は課題が多い。	・整理する力 ・読み取る力 ・まとめる力を伸ばす	・基礎基本を定着させるための学習と思考・判断・表現力を育成するための学習とのバランス	「基本事項」の定着は、できている分野と不十分な分野での差がある。今後、不十分な分野の改善を図る。 また「簡潔にわかりやすくまとめる力」は弱い。日々の学習の中で、根気強く「読み取り・まとめる」力を育てる。	・教員「授業中基礎基本の定着のため、課題の出し方を工夫している」93% ・生徒「授業を通して基礎的な知識や技能を身につけることができている」92% ・教員「整理する力や読み取る力が身につくよう工夫をしている」93% ・生徒「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意である」49%	わかりやすく丁寧な授業を行い、基礎基本の定着を心がけようとしている。しかし、そこに時間を取られてしまい、思考・判断・表現を高めるための学習時間は少ない。バランスよく授業を行うためにも、「基礎基本の定着は学校と家庭の両面で行う」ことを浸透させる必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は良好。2分前着席ができ、教師の話もよく聞くことができる。 ●指示には従うが、自発的に動こうとする意欲は弱い。	「なぜだろう」「どうしてだろう」「どうなっているのだろう」「自分はこう思う」「自分ならこうしてみたい」「くらべてみたらどうだろう」など、自ら積極的に学習に参加する	・具体的に目標を設定し、自覚を促す。 ・発問の工夫(しなさい×→どうすればいいと思う○) ・ノートづくり ・評価の工夫	本校だけにとどまらず、県下全体で見ても「分からないからもういい」という傾向が見られる。[毎日コツコツ][辛抱強く][失敗を恐れない][自分を信じる]ことを目標に学校生活全体で取り組んでいく。	・教員「生徒が自ら意欲的に取り組めるよう工夫をしている」86% ・生徒「ノートに書くとき、あとで見直しができるように、整理したり、自分なりの考えを書き込んだり工夫している」72%	真面目な生徒が多く、教えてもらう(指示された)ことには「分かる」「できる」ために熱心に取り組んでいる。しかし、自ら課題意識を持って取り組むことは苦手である。さらなる授業改善に努め、「正解を求める」だけでなく「考える」ことを大切にできる授業を目指していく必要がある。

令和3年度 学力向上ロードマップ



